



缶バッジコンテスト発表



案内スタッフ



交流会（プロ棋士による対局解説）



プロ棋士による指導

「いばらき総文 2014」に参加して

茨城県立水戸第一高等学校 3年 海野 壘

昨年に続いて全国高等学校総合文化祭に出場させていただきましたが、今年は地元開催ということでより一層、良い結果を残したいという思いが強かったです。会場である茨城県武道館には運営スタッフである茨城県内の高校生が大勢集まっていて、茨城代表として頑張らなければと思いました。

結果は団体 18 位であり、昨年の 16 位から少し順位を落としてしまい悔しい結果となりました。個人としては、課題であった時間の使い方や序盤の打ち方がうまくいったものの、やはり全国の強豪との力の差を感じました。強豪の方との対局を通して、自分にまだまだ足りないところに気づくことができました。2日目の終わりには昨年と同様にプロの溝上知親八段に個人戦決勝の碁の解説をしていただき、優勝した方のプロ級の読みの深さや鮮やかな打ち回しに自分もいつかあんな碁が打ちたいと思いました。

高校3年間の最後に地元茨城での高総文祭に出場できて本当に良かったと思います。地域の方が応援にきてくださり、会場に設けられた指導碁のブースにはたくさんの方が詰めかけていました。茨城県は囲碁が盛んであり、大勢の囲碁ファンの方々が囲碁を楽しんでいることを実感しました。この経験を生かして大学でも囲碁をつづけ、今後も地元茨城の大会に出場し続けたいと思います。

最後になりますが、お世話になった先生方、会場づくりや大会運営をしてくださったスタッフのみなさん、本当にありがとうございました。

選手として出場して

茨城県 茗溪学園高等学校 1年 鈴木 啓斗

今年は茨城で高総文祭が開催されたので、この大会補欠だった私は初めて全国大会にでることができました。高総文祭は真剣勝負の部分と、交流会などの穏やかな部分が組み合わさってできている大会です。選手権などの真剣勝負だけの大会とは違い、交流の意味も強い大会だと感じました。

私は高総文祭の真剣勝負の場では、2勝4敗と負け越してしまいました。特に2回戦では、優勝候補の一角の橋本さんと当たりましたが、力の差が大きくムリ手をとがめられ、大差で負けてしまいました。やはり、高校トップレベルとの差を改めて感じました。

この高総文祭では広島県の坂倉さんが優勝しました。坂倉さんは広島県のアマチュアの中で優勝するほどの腕前で前評判通りの活躍をしていました。準優勝には茨城県の今野さんが入り、開催県茨城の意地をみせてくれました。

高総文祭の全6回戦を終えたあとには、交流会がありました。交流会では決勝戦の解説を、プロ棋士の溝上八段にしてもらいました。決勝戦の対局なのでレベルが高く、勉強になりました。

この高総文祭を通して対局や交流会で技術面だけでなく、交友関係も築くことができました。まだ1年生なので技術面、精神面を高めて、またこの高総文祭に戻ってこようと思いました。高総文祭茨城大会を無事に終えることができたので、この大会に協力してくれた方に感謝しています。